

D—20 家庭生活の本質に関する一考察 第4報
家庭生活の特質

福岡学芸大 平田 昌

1. 家政学において、「家庭生活」の「生活」としての特質を追求することは、非常に重要であるとの見解から、すでに第1報（S. 37. 6. 9. 第5回家庭科教育学会）、第2報（S. 38. 4. 30. 日本家政学会九州支部会）、第3報（S. 38. 6. 17. 第6回家庭科教育学会）、を公表した。今回は、第4報として、家庭生活の特質を、生活行動形態としての側面から把握する事を試みた。

2. 家政学、家庭科教育学、家族法学、家族社会学、家族経済学、技術学、社会心理学の諸文献を資料として、上記による論述を行なった。

3. 『家庭生活』は、『家族』という人間集団が、『家

庭』という場において、営む生活である。」とするならば、その「生活」としての独自性の中で、人間のもつ basicneeds 充足のための諸行動の占める位置は大きい。また、その時間的連続性と空間的固着性は基本的独自性であると考えられ、当然 habit 及び habitation としての特質も大きな問題となる。これらについてはすでに述べたが、それらの考え方を更に発展させて、生活行動形態としての technic 及び skill の側面に言及した。このような把握は、「教科」としての「家庭科」の特質を論じるについても、重要なポイントをもつものと考えらる次第である。